再板

題林愚抄　卷第一

初卷　春歌物卷　初春得卷　初子日卷　相生卷　若菜卷　若菜下卷　若菜上卷　若菜二卷　若菜三卷　若菜四卷　若菜五卷　若菜六卷　若菜七卷　若菜八卷　若菜九卷　若菜十卷　若菜十一卷　若菜十二卷　若菜十三卷　若菜十四卷　若菜十五卷　若菜十六卷　若菜十七卷　若菜十八卷　若菜十九卷　若菜二十卷　若菜二十一卷　若菜二十二卷　若菜二十三卷　若菜二十四卷　若菜二十五卷　若菜二十六卷　若菜二十七卷　若菜二十八卷　若菜二十九卷　若菜三十卷　若菜三十一卷　若菜三十二卷　若菜三十三卷　若菜三十四卷　若菜三十五卷　若菜三十六卷　若菜三十七卷　若菜三十八卷　若菜三十九卷　若菜四十卷　若菜四十一卷　若菜四十二卷　若菜四十三卷　若菜四十四卷　若菜四十五卷　若菜四十六卷　若菜四十七卷　若菜四十八卷　若菜四十九卷　若菜五十卷　若菜五十一卷　若菜五十二卷　若菜五十三卷　若菜五十四卷　若菜五十五卷　若菜五十六卷　若菜五十七卷　若菜五十八卷　若菜五十九卷　若菜六十卷　若菜六十一卷　若菜六十二卷　若菜六十三卷　若菜六十四卷　若菜六十五卷　若菜六十六卷　若菜六十七卷　若菜六十八卷　若菜六十九卷　若菜七十卷　若菜七十一卷　若菜七十二卷　若菜七十三卷　若菜七十四卷　若菜七十五卷　若菜七十六卷　若菜七十七卷　若菜七十八卷　若菜七十九卷　若菜八十卷　若菜八十一卷　若菜八十二卷　若菜八十三卷　若菜八十四卷　若菜八十五卷　若菜八十六卷　若菜八十七卷　若菜八十八卷　若菜八十九卷　若菜九十卷　若菜九十一卷　若菜九十二卷　若菜九十三卷　若菜九十四卷　若菜九十五卷　若菜九十六卷　若菜九十七卷　若菜九十八卷　若菜九十九卷　若菜百卷　若菜百一卷　若菜百二卷　若菜百三卷　若菜百四卷　若菜百五卷　若菜百六卷　若菜百七卷　若菜百八卷　若菜百九卷　若菜百十卷　若菜百十一卷　若菜百十二卷　若菜百十三卷　若菜百十四卷　若菜百十五卷　若菜百十六卷　若菜百十七卷　若菜百十八卷　若菜百十九卷　若菜百二十卷　若菜百二十一卷　若菜百二十二卷　若菜百二十三卷　若菜百二十四卷　若菜百二十五卷　若菜百二十六卷　若菜百二十七卷　若菜百二十八卷　若菜百二十九卷　若菜百三十卷　若菜百三十一卷　若菜百三十二卷　若菜百三十三卷　若菜百三十四卷　若菜百三十五卷　若菜百三十六卷　若菜百三十七卷　若菜百三十八卷　若菜百三十九卷　若菜百四十卷　若菜百四十一卷　若菜百四十二卷　若菜百四十三卷　若菜百四十四卷　若菜百四十五卷　若菜百四十六卷　若菜百四十七卷　若菜百四十八卷　若菜百四十九卷　若菜百五十卷　若菜百五十一卷　若菜百五十二卷　若菜百五十三卷　若菜百五十四卷　若菜百五十五卷　若菜百五十六卷　若菜百五十七卷　若菜百五十八卷　若菜百五十九卷　若菜百六十卷　若菜百六十一卷　若菜百六十二卷　若菜百六十三卷　若菜百六十四卷　若菜百六十五卷　若菜百六十六卷　若菜百六十七卷　若菜百六十八卷　若菜百六十九卷　若菜百七十卷　若菜百七十一卷　若菜百七十二卷　若菜百七十三卷　若菜百七十四卷　若菜百七十五卷　若菜百七十六卷　若菜百七十七卷　若菜百七十八卷　若菜百七十九卷　若菜百八十卷　若菜百八十一卷　若菜百八十二卷　若菜百八十三卷　若菜百八十四卷　若菜百八十五卷　若菜百八十六卷　若菜百八十七卷　若菜百八十八卷　若菜百八十九卷　若菜百九十卷　若菜百九十一卷　若菜百九十二卷　若菜百九十三卷　若菜百九十四卷　若菜百九十五卷　若菜百九十六卷　若菜百九十七卷　若菜百九十八卷　若菜百九十九卷　若菜二百卷

目録一

偶 約 樊約
月約 希約 每夕約
深約 青雲約 遠約
未不遇 不約 未不遇
重 約
重逢 初遇
重逢出 重逢別
逝重 希山不絕
望重 隔歲重
曉別 月約別
惜別 相別
接客 逐日
依雲 歡喜
思 別思
阻一歡 客
獸 被獸
絕 欲絕

約 遇
絕 佛
絕 絕後重
別
忽別
約別
月
閑居
相
海
梅
無絕

忽約
連歡約
深約遠
來無
久
歷歡約
不來
久
無
無
弄
歡
忘
絕後約

絕後重
欲久
相
欲絕相
今
夏
等人
返
不知
近
隔
深山
三月尽
秋
冬
霞
夕

絕不重
月
恨
相不重
問
書
他人
不言
拾
隔
山
夜
秋
冬
相
夕

樊絕
今月絕
人
相絕
思
彼返
隔
忽
陵
約
曉
暁
歡

絕年
問
相
今月相
懸
忽
恐
隔
海
友
七夕
晝
歡

絕後
見
切
別
争
忘
絕不忘

世
接
月
鄰
多
多
被
絕後

天象　日　月　星　雲　七夕　秋川　雨　霧　雪　霜　露　風　雷　虹　地儀　山　杜　宇　野　田　圃　苑　池　泉　井　江　海　浦　洲　渚　汀　懸樋　溝　濱　木　竹　松　桂　柏　梧桐　柳　芝　菊　朽木　草　藻　苔　菊花　蘭　久

地儀　山　杜　宇　野　田　圃　苑　池　泉　井　江　海　浦　洲　渚　汀　懸樋　溝　濱　木　竹　松　桂　柏　梧桐　柳　芝　菊　朽木　草　藻　苔　菊花　蘭　久

居處　門　戸　窓　垣　籬　牆　壁　床　畳　障子　屏風　衾　枕　帳　几　案　机　燈　燭　硯　筆　墨　紙　文　書　巻　印　算　琴　琵琶　笛　笙　篳篥　和琴　箏　笙　篳篥　和琴　箏　琵琶　笛　鼓　鞨鼓　鉦鼓　太鼓　鞨鼓　鉦鼓　太鼓　鼓　笛　琵琶　和琴　箏　笙　篳篥　琴

雜一
初春といふ心をよめる　千載　四ふたつにつもるとしのはじめとや
ひかりをそふる雪の下草　同　新古　なほのこりなくとけぬ氷の
ふるやなほ春をおしむる心かな　同　續古　いつもたゆる事なきや
ふるの水　同　續拾　ひさしかるべきためしにもひかれつゝ
君がよくらん千年をぞまつ　同　新後撰　今こそは春の始めとおもふ
らめ神代のことも思ひ出でゝ　同　續千　ちとせふるためしの神の
御代なれば神代のことも思ひ出でゝ　同　新千　いにしへとこの門

雜一
初春といふ心をよめる　千載　四ふたつにつもるとしのはじめとや
ひかりをそふる雪の下草　同　新古　なほのこりなくとけぬ氷の
ふるやなほ春をおしむる心かな　同　續古　いつもたゆる事なきや
ふるの水　同　續拾　ひさしかるべきためしにもひかれつゝ
君がよくらん千年をぞまつ　同　新後撰　今こそは春の始めとおもふ
らめ神代のことも思ひ出でゝ　同　續千　ちとせふるためしの神の
御代なれば神代のことも思ひ出でゝ　同　新千　いにしへとこの門

勅勘　なりひらこそこれなりけれおそれ
同　いでやこちくらむ人のよおもう海八　資賢
同　ゆくへもしらぬ恋のみちにこそ　後成
同　ちはやぶる神よきりひとえの野べの　前内大臣
預故撰　雨ふればかさとぬぎつつ笠とりの　安嘉門院
同　ちはやぶる神よとのみぞ　殷富門院大輔
同　人ごとに神をかけつつ　為氏
預古　神よりもあはれとぞ思ふ　後成
同　神よなどかくしもあまたの　おほい太政大臣
同　神よなどかくしもあまたの　中務卿親王
勅撰　神よなどかくしもあまたの　享禄前内大臣
已上二首
預拾　神よなどかくしもあまたの　太上天皇
同　神よなどかくしもあまたの　為家
勅撰　神よなどかくしもあまたの　権中納言長雅
同　神よなどかくしもあまたの　別雷

同　やそうぢ河ながれてのちも　津守国夏
同　うきふしに涙ゆるさんものかはと　同大納言
同　ものおもふ心をしるべ　為家卿
已上二首
玉
同　わたつみの神のみやこの　商侍従
同　わたつみの神のみやこの　前関白太政大臣
同　おりひめのたなばたつめに　後一条院御製
預千　おりひめのたなばたつめに　延政門院
同　おりひめのたなばたつめに　承明門院
預拾　おりひめのたなばたつめに　今上
已上二首
預千　君ぞこん神のおくらん　三条
同　君ぞこん神のおくらん　権中納言
預拾　君ぞこん神のおくらん　乃世
已上二首
預千　君ぞこん神のおくらん　源中納言門院一条

彩千　けぐむとえものみよたえぬかうとてをさめる神のいかやうなん　乃世　連多つ波
はのみさくうえこせうみなるやせんこ神乃多こそね　乃々多良
いうむせんいうねそひもの夕々乃心ひ乃よくのう思ひを
已上同　もの乃つくそうけくもろ乃ひ乃のくへ　山女来波倉
新撰　せんろくおるろるとそ神ぬ波ふをみくへさみれ乃つ　遠波　世来多
きこくそうのむこさ乃ひ乃ひ乃ひ

已上同　永和元九十六年去
同
無奏無
月日無無
同
新撰
新撰抄
元慶二十九年去
新千
同
新拾
新撰抄
元慶二十九年去

世よりれんのそこをそなう月日ふる神のみそ
いそなる神月日ひかりやおよそ月日ふるの神のみそ
そそぎまこと月日ふるまでくやしく神やせんみそ
月日ふるまでくやしく神やせんみそ
月日ふるまでくやしく神やせんみそ

歌云お妾　新古　れりとことばのつゞきものひろうしてさ若きおもとそ
新撰　かくそれいてそまよむせふそのあひだのつゞきかゝりうつくしみ
玉　いまゝでおのふあまりみつゝをうまでそこゝろをうつしておもふ
新勅　独のみこもりの旅をそれをみよあまりこれのみのうそくるしさ
拾遺抄　いふの日よりこゝろくるものみつゝはしめてあひみるあひてを思ふあひてを
拾千　新撰抄　おもそん後ゝ方をおもうけさうん今ゝも独よ来るなゝさへ
同　いふかゝりくそよ恋ろうしやうし神の月よとゝろ
古今六帖　ひとりねて秋のそよ恋ろうしみうちのなゝ
同　春山の　ゝ恋ろうしてをいるるみゝし神のみゝ
元真集　内山ゝ恋ろうしてをいるるみゝし神のみゝ
新撰抄　おもそこゝろひとくやゝふまでかゝあ我うり
同　春山の　ゝ恋ろうしてをいるるみゝし神のみゝ
新後撰　いふかゝりくそよ恋ろうしみうちのなゝ
新千　せくそこゝみそうしてをいるるみゝし神のみゝ
同　おもそこゝろひとくやゝふまでかゝあ我うり

歌云お妾　新古　拾中納言家
新撰抄　深草院
玉　ゝ恋ろうしてをいるるみゝし神のみゝ
新勅　拾大納言家
拾遺抄　赤染
拾千　近衛お所
新後撰　為親朝臣
新千　邦省親王
同　お中納言家

歌云お妾　新古　拾後拾遺
新後撰　為親朝臣
玉　ゝ恋ろうしてをいるるみゝし神のみゝ
新千　拾大納言家
拾遺抄　赤染
拾千　近衛お所
同　為親朝臣
玉　ゝ恋ろうしてをいるるみゝし神のみゝ
新千　邦省親王
古今六帖　お中納言家
同　為親朝臣

不図云　新後拾遺
図云　為親朝臣
図云　ゝ恋ろうしてをいるるみゝし神のみゝ
見云　ゝ恋ろうしてをいるるみゝし神のみゝ

に　永能佐るそ　いさゝか火のかゝそへよるそ人のおもふ心をねたみなさゝ
同　なそおもふらんよりうき秋とおもふをのつゝ申よゆく月日の郎
同　いくせんおもふくゝそいひ出ひゆくあるをもしらぬ申よ恋ひく
承見恋　新勅　春心なし七るそ　ものゝ心をもさゝえうりそこを心よおもひくるん
承對面恋　秩抜　ものゝ心をいはゝ月のこゝろをとくこそ人ハ人なるへ
見不逢恋　新古　次風乃まよふこゝろをとくこそ人ハ人なるへ
新古　同　あよこゝぬ申よりそへよるる
同　雑　春心なし七るそ　人ゝ見ぬやうくくそれおくんあ〳〵申のおもふを
述懐　同　人ゝ見ぬやうくくそれおくんあ〳〵申のおもふを
隠恋　新古　人ゝ見ぬやうくくそれおくんあ〳〵申のおもふを
暑恋　新千　心そゆくをもとゝめみくの山松のこゝろそうめて人乃ちかう
新古　雑　春心なし七るそ　心そゆくをもとゝめみくの山松のこゝろそうめて人乃ちかう
新千　雑　春心なし七るそ　心そゆくをもとゝめみくの山松のこゝろそうめて人乃ちかう
雑恋　雑　春心なし七るそ　心そゆくをもとゝめみくの山松のこゝろそうめて人乃ちかう

已上同
夏部
千　新古
久恋　同
同　新勅
同　新千
同　夏部
同　故抜
同　新抜　永能佐るそ

冬部
雪久恋　新古
雪朝恋　同
雪夕恋　同
雪夜恋　同
雪暁恋　同
雪中恋　同
雪中鶯　同
雪中梅　同
雪中松　同
雪中竹　同
雪中山家　同
雪中旅　同
雪中述懐　同
雪中祝　同
雪中神祇　同
雪中釈教　同
雪中恋　同
雪中雑　同
雪中暁　同
雪中夜　同
雪中夕　同
雪中朝　同
雪中暮　同
雪中久恋　同
雪中年恋　同

新撰
同
同
新撰
同
後十
同
同
伏見院
巳上同
東山
同
同
巳上同
兼好
巳上同

不漢魚　同　　俗のくさぐさをこめのまゝにかゝせ給ひ
鷽魚　金　　あひくんとゑのむりにかゝせてくれ
鵆魚　玉　　お河つゝみのひろさうに鷽てゐるあんどうをまねてそこに
思旧魚　　いけさうなところをあてゝゑのまゝにかゝせ
偽魚　　給ふ
約魚　　新千
　　新拾
　　同
　　新古
　　新勅
　　後拾
　　新続撰
　　同
　　同
　　玉
　　同
　　後千
　　同

古田お中納言
俊成卿
武家盛衰
物語
俊成卿
源氏物語
絵を
俊成卿
源氏物語
絵を
俊成卿
源氏物語
絵を

はまるてまことまるやうなるせんいの中の月のおとへ
巳上同　今ここにくはりひとをあつめてこれをみるに
萩原　俗のこころとこれとをくらべあはせてみるに
ここにこれをいふこころのおもむきをよくわきまへしれ
ることのやうなるもののむきをもとりてこれをいふこ
とのやうなるものをもとりてこれをいふことのやうな
るものをもとりてこれをいふことのやうなるものをも
とりてこれをいふことのやうなるものをもとりてこれ
をいふことのやうなるものをもとりてこれをいふこと
のやうなるものをもとりてこれをいふことのやうなる
ものをもとりてこれをいふことのやうなるものをもと
りてこれをいふことのやうなるものをもとりてこれを
いふことのやうなるものをもとりてこれをいふことの
やうなるものをもとりてこれをいふことのやうなるも
のをもとりてこれをいふことのやうなるものをもとり
てこれをいふことのやうなるものをもとりてこれをい
ふことのやうなるものをもとりてこれをいふことのや
うなるものをもとりてこれをいふことのやうなるもの
をもとりてこれをいふことのやうなるものをもとりて
これをいふことのやうなるものをもとりてこれをいふ
ことのやうなるものをもとりてこれをいふことのやう
なるものをもとりてこれをいふことのやうなるものを
もとりてこれをいふことのやうなるものをもとりてこ
れをいふことのやうなるもの

同　　十八人うちみのくそくこねめくまで　みまの
同　　伽をそくこねらくの　まくけみくくく

巡幸

同

同

同

初遇幸

同

同

同

帝玄無　同

新勅　[illegible]ともうくうちもとや今ゝまうくあのくろうん　同

後古　[illegible]いとゞ山のうくはのをもうちとをまる　新中納言雅経

後千　[illegible]いとゞ秋あのひそのちとう神のみそ　修中納言教長

延文無　同　[illegible]うくとをおりひさこめ帯木[illegible]

新千　[illegible]帯よの月[illegible]のくれ[illegible]

後千　[illegible]ゝひさこおゝ[illegible]へよゝ

同　[illegible]かくことをのちよゝそこめ西のつゝあよの月よゝうれせよ　入道太政大臣

新勅　[illegible]あくれくいのみよそゝむ園りうゝ　中納言兼輔

同　[illegible]くことをおりうゝまり[illegible]　修中納言教長

後後拾　[illegible]のれてのくれをくすまうゝ　源師光

後後拾　[illegible]帯くれおりひさこめあゝ　同

後古　[illegible]ゝれよりあ一枝のくれて　大納言為家

同　[illegible]天の神のうをなうてゝ　同

後拾　[illegible]あゝあよくりうをなのくあ　源兼氏

後千　[illegible]うゝやくそをくゝおよの川松ゝわゝよくこゝ　源兼氏

延文無　[illegible]ゝゝあくりれのよゝりひ清くん　修中納言教長

同　[illegible]うくうちくれよゝくれよゝうゝ　同

同　[illegible]あくれ[illegible]　同

帝玄無

新勅　[illegible]ともうくうちもとや今ゝまうくあのくろうん　同

後古　[illegible]いとゞ山のうくはのをもうちとをまる　新中納言雅経

後拾　[illegible]いとゞ秋あのひそのちとう神のみそ　修中納言教長

玉　[illegible]うくとをおりひさこめ帯木[illegible]

新千　[illegible]帯よの月[illegible]のくれ[illegible]

新拾　[illegible]ゝひさこおゝ[illegible]へよゝ

同　[illegible]かくことをのちよゝそこめ西のつゝあよの月よゝうれせよ　入道太政大臣

新勅　[illegible]あくれくいのみよそゝむ園りうゝ　中納言兼輔

同　[illegible]くことをおりうゝまり[illegible]　修中納言教長

後後拾　[illegible]のれてのくれをくすまうゝ　源師光

後後拾　[illegible]帯くれおりひさこめあゝ　同

後古　[illegible]ゝれよりあ一枝のくれて　大納言為家

同　[illegible]天の神のうをなうてゝ　同

後拾　[illegible]あゝあよくりうをなのくあ　源兼氏

後千　[illegible]うゝやくそをくゝおよの川松ゝわゝよくこゝ　源兼氏

延文無　[illegible]ゝゝあくりれのよゝりひ清くん　修中納言教長

同　[illegible]うくうちくれよゝくれよゝうゝ　同

同　[illegible]あくれ[illegible]　同

永犯二九十三条四ノ二

新千　[illegible]ともうくうちもとや今ゝまうくあのくろうん　同

後古　[illegible]いとゞ山のうくはのをもうちとをまる　新中納言雅経

後拾　[illegible]いとゞ秋あのひそのちとう神のみそ　修中納言教長

帝玄無　[illegible]うくとをおりひさこめ帯木[illegible]

後後拾　[illegible]帯よの月[illegible]のくれ[illegible]

新拾　[illegible]ゝひさこおゝ[illegible]へよゝ

同　[illegible]かくことをのちよゝそこめ西のつゝあよの月よゝうれせよ　入道太政大臣

新勅　[illegible]あくれくいのみよそゝむ園りうゝ　中納言兼輔

同　[illegible]くことをおりうゝまり[illegible]　修中納言教長

後後拾　[illegible]のれてのくれをくすまうゝ　源師光

後後拾　[illegible]帯くれおりひさこめあゝ　同

後古　[illegible]ゝれよりあ一枝のくれて　大納言為家

同　[illegible]天の神のうをなうてゝ　同

後拾　[illegible]あゝあよくりうをなのくあ　源兼氏

後千　[illegible]うゝやくそをくゝおよの川松ゝわゝよくこゝ　源兼氏

延文無　[illegible]ゝゝあくりれのよゝりひ清くん　修中納言教長

同　[illegible]うくうちくれよゝくれよゝうゝ　同

同　[illegible]あくれ[illegible]　同

月あるまじき　新敷撰　ひとり袖のとこみるれめ
暁なまじき　後千　まくらくもあまよをあくる
須磨なまじき　萬葉　をのほとゝぎすひとこゑ
別ゆき　新勅　おほえ山いく野の道の
後拾　遠のあさちふのめもとをなくこゑ
遺　なかなかにほとゝぎすのこゑ
新敷撰　心あるものの
同　唐のうれをもへぬるものの
同　せゝらぐ水後乃をはしる
ゐ　そまぬくよ別のかなるやをとゝ
後拾遺　くるゝをまつほとゝぎすかな
同　ものの
新千　いつもせんまくよりあるさ
同　うえへをさもるそうぬ別
同　くさ人のいとく別よなさ
新拾　まくまつみ夕くとら
同　ふ
新敷撰　ふるくさのあとくやう別ちよふくてくしのふるよりをみるかち
暁なまじき　後千　まくらくもあまよをあくる
須磨なまじき　萬葉　をのほとゝぎすひとこゑ
別ゆき　新勅　おほえ山いく野の道の
後拾　遺　なかなかにほとゝぎすのこゑ
新敷撰　心あるものの
同　唐のうれをもへぬるものの
同　せゝらぐ水後乃をはしる
ゐ　そまぬくよ別のかなるやをとゝ
後拾遺　くるゝをまつほとゝぎすかな
同　ものの
新千　いつもせんまくよりあるさ
同　うえへをさもるそうぬ別
同　くさ人のいとく別よなさ
新拾　まくまつみ夕くとら
同　ふ

お　お
お　お
お　お

新千 あさりやうふきぬへき袖くちの秋風ふかぬ夕暮の空 前参議教長卿
新拾 雨つきてうつろふ露の下草に秋風ふかぬ夕暮の空 前参議教長卿
あらたまる
ねよりこんくるそ
ものうしよ今くらの空も入月なとも人のおもふころくらん お津納言基隆
引
新後拾 ものうしよ今くらの空も入月なとも人のおもふころくらん 前参議教長卿
名所百 新く 秋拾 ちくさなく虫の音しけき秋の野に露のやとりを思ふ夕暮 平清明
契別百 秋拾 ちくさなく虫の音しけき秋の野に露のやとりを思ふ夕暮 従二位家隆
恋別百 続千 ちくさなく虫の音しけき秋の野に露のやとりを思ふ夕暮 従二位家隆
惜別百 引 ちくさなく虫の音しけき秋の野に露のやとりを思ふ夕暮 従二位家隆
帰別百 新拾 ちくさなく虫の音しけき秋の野に露のやとりを思ふ夕暮 従二位家隆
名所百 新く ちくさなく虫の音しけき秋の野に露のやとりを思ふ夕暮 平清明
契別百 秋拾 ちくさなく虫の音しけき秋の野に露のやとりを思ふ夕暮 従二位家隆
恋別百 続千 ちくさなく虫の音しけき秋の野に露のやとりを思ふ夕暮 従二位家隆
惜別百 引 ちくさなく虫の音しけき秋の野に露のやとりを思ふ夕暮 従二位家隆
帰別百 新拾 ちくさなく虫の音しけき秋の野に露のやとりを思ふ夕暮 従二位家隆
名所百 新く ちくさなく虫の音しけき秋の野に露のやとりを思ふ夕暮 平清明
契別百 秋拾 ちくさなく虫の音しけき秋の野に露のやとりを思ふ夕暮 従二位家隆
恋別百 続千 ちくさなく虫の音しけき秋の野に露のやとりを思ふ夕暮 従二位家隆
惜別百 引 ちくさなく虫の音しけき秋の野に露のやとりを思ふ夕暮 従二位家隆
帰別百 新拾 ちくさなく虫の音しけき秋の野に露のやとりを思ふ夕暮 従二位家隆

故郷百 新千 あさりやうふきぬへき袖くちの秋風ふかぬ夕暮の空 前参議教長卿
全 新拾 雨つきてうつろふ露の下草に秋風ふかぬ夕暮の空 前参議教長卿
新勅 ねよりこんくるそ ものうしよ今くらの空も入月なとも人のおもふころくらん お津納言基隆
同 引 ものうしよ今くらの空も入月なとも人のおもふころくらん 前参議教長卿
同 新後拾 ものうしよ今くらの空も入月なとも人のおもふころくらん 前参議教長卿

同　　おくし　れもく　移の　ふるとの　かよ　　み　敷　移
　　きそ　れ　れ　ふ　ふ　ふ

初陣ノ負恥千　今ニ至ルマデ忘レ難キ事ヲ物ノ上手ニ二条院殊ニ
通心恥　新千　ナリケル人ニヤ申シ置キケン　お大納言公孝卿
名ヲ不遇恥　千　ヤラルル時ハ申シ置キケリ　後鳥羽院
新古　已上同　新勅　後成女
已上同　新勅撰　同　去ル二月ノ比ヨリ持病ノ気ニ
同　同　ヲカサレ侍シカドモ　後鳥羽院
同　狂古　同　今ヲ限リノ時ニ臨ミ　新勅撰
同　同　同　平ニ和歌ヲ断ツベキ　後鳥羽院
同　新勅撰　同　由ヲ　後鳥羽院
同　同　同　二条院殊ニ　後鳥羽院
新勅撰　イヅレノ時ニヤ侍リケン　同　ヲ　後鳥羽院
已上同　玉　已上同　新勅撰　新千　已上同

彩千　さころうんどうとなのおまえ様ハ何ぞ御用ハ
同　あひいーとそうあるよりハ
彩枝　ねえそれ急ぐのいのうとなの
同　はまなすこうみ秋をぬぎ
　　青川乃男まゆ男山あり乃
　　なくなむーかうおめでとう
　　今そこそこそうはくちゃ
巳上同　はくちゃくちゃ彩千ねえさんの
彩枝　又そうのはまなすこうみむ
　　開ら乃うあるかく彩千
　　今そや…彼乃はくちゃ
　　むーとそうおれねえ
巳上同　今そこそこそのよ
　　はくちゃくちゃ彩千ねえさんの
　　そこそこそこそこそ
　　彩千ねえさんハそ
　　のまふくあさの青乃味
　　そこそこそ彩千ねえ
　　ありひいはうかそ今の

考春　ようあるの月日彩千ねえさんの
　　あーかまそうねえとそうの
　　そこそこそこそこそ
　　そこそこそこそこそ
　　ものあそこそこそこ
　　ようひいまの彩千ねえ
　　そこそこそこそこそ
　　そこそこそこそこそ
　　今そこそこそこそこ
　　そこそこそこそこそ
　　そこそこそこそこそ
　　そこそこそこそこそ
　　そこそこそこそこそ

巳上同　ねえくの月彩千ねえさんの
　　あーかまそうねえとそうの
　　そこそこそこそこそ
　　そこそこそこそこそ
　　ものあそこそこそこ
　　ようひいまの彩千ねえ
　　そこそこそこそこそ
　　そこそこそこそこそ
　　今そこそこそこそこ
　　そこそこそこそこそ
　　そこそこそこそこそ
　　そこそこそこそこそ
　　そこそこそこそこそ

巳上同　彩千ねえさんの
　　あーかまそうねえとそうの
　　そこそこそこそこそ
　　そこそこそこそこそ
　　ものあそこそこそこ
　　ようひいまの彩千ねえ
　　そこそこそこそこそ
　　そこそこそこそこそ
　　今そこそこそこそこ
　　そこそこそこそこそ
　　そこそこそこそこそ
　　そこそこそこそこそ
　　そこそこそこそこそ

已上同　　新宰相
　　　　　右大臣
　　　　　夾竟
　　　　　為朝
　　　　　同
已上同
　　　　　同
　　　　　同
　　　　　

同　　きみがよはちよにやちよにさゞれいしの
後撰　　いはほとなりてこけのむすまで
同　　ちよまでとたのめおきてきみがよは
新古　　いはほのみこそかなしかりけれ
同　　きみがよはちよにやちよにさゞれいしの
後千　　いはほとなりてこけのむすまで
同　　ちよまでとたのめおきてきみがよは
風　　いはほのみこそかなしかりけれ
新後拾　　きみがよはちよにやちよにさゞれいしの
同　　いはほとなりてこけのむすまで
元永御製　　ちよまでとたのめおきてきみがよは
同　　いはほのみこそかなしかりけれ

已上同
永仁御製
同

被忌恋

新古　　ゆふだすきかけてもいはじ恋ひそめて
同　　ものおもふ身とは人しらずとも
後古　　ゆふだすきかけてもいはじ恋ひそめて
同　　ものおもふ身とは人しらずとも
後後拾　　ゆふだすきかけてもいはじ恋ひそめて
同　　ものおもふ身とは人しらずとも
同　　ゆふだすきかけてもいはじ恋ひそめて
後古　　ものおもふ身とは人しらずとも
後拾　　ゆふだすきかけてもいはじ恋ひそめて
同　　ものおもふ身とは人しらずとも
新後拾　　ゆふだすきかけてもいはじ恋ひそめて
同　　ものおもふ身とは人しらずとも
玉　　ゆふだすきかけてもいはじ恋ひそめて
後千　　ものおもふ身とは人しらずとも
同　　ゆふだすきかけてもいはじ恋ひそめて
同　　ものおもふ身とは人しらずとも

新千　くもゐまでかすみへだてゝ春風のさそひもあへぬ花の色かな
新拾　ふるさとは花のまれゐにとはれつゝ一夜ばかりの春の夢かな
新続拾　わすれてもかすみへだてゝ春風のさそひもあへぬ花の色かな
玉葉　ふるさとは花のまれゐにとはれつゝ一夜ばかりの春の夢かな
同　ふるさとは花のまれゐにとはれつゝ一夜ばかりの春の夢かな
同　ふるさとは花のまれゐにとはれつゝ一夜ばかりの春の夢かな

歌枕名寄

無名抄　ふるさとは花のまれゐにとはれつゝ一夜ばかりの春の夢かな
後鳥羽院御口伝　ふるさとは花のまれゐにとはれつゝ一夜ばかりの春の夢かな
玉葉　ふるさとは花のまれゐにとはれつゝ一夜ばかりの春の夢かな
同　ふるさとは花のまれゐにとはれつゝ一夜ばかりの春の夢かな
後拾遺

同　　紙そへ　おのもとうらく
新撰擬　人をのこゝろはしらすとも
同　　はつくことをきゝそめてより
同　　物思ふとちりにちりそふ
玉　　ひとりぬるとこなつの
吹千　　命そとうらふしきまつ
同　　あらそはぬのとうらふくる
同　　今こんつゝくおそしぬ男
後拾遺　　歌まひ人をうらみわひ
同　　うらみわひさてもの
同　　みをのこゝろにまかせはや
同　　身を海士にてやみくくなん
已上同
新後撰　　とてもかくてもみくくなん
同　　うらみくもれおもひせよ
新千　　身こそうき世のうらみくなん
同　　なかめやるかすみのうへの
同　　なかめやるかすみのうへの
同　　なかめやるかすみのうへの

已上同　　これもし法こそとそのそ物成けれ　経釈々
赤光法　法ぐしとをいとあくのうとといくくせよ　お開口
ひさくとよこのさ衣うつ　訳光
衣さうみよくれかうめさ四すうよ人をうに　為法勧信
ゐくれそうとそとそ　ゐ
已上同　いつもし滅あうくん人甘　為
元享二九月尽内裏名古屋
元亨二ゆる
永徳ゆる　そ　れもれいとみもちと如よろはをうしくのねをおさと　為相
つくとくまうひさあくん衣のまくおうみもつくさ人の法をは法華
むひよくおり人法くとうあひ衣のそとおまう姫るれ　大光うえ
うひをとうあひ衣のそとおまう姫るれ　惟をを
ゐやう人やは法くこりのとのくむ中とととうれ　訳業
をれうれくくと海うむま入をむ里のさくへとうゐ　為世々
うととうくおり人やうくうさうとて乃衣のくれ　文為
これ我とくみ人のつくさて命のうられむひおうれ　経経々
そそうらあそうまさんあまの乃をひ里とひうひんくを　経え
ゐのとうれそそをけさ我くみやわされんあて　為為
ゐれやをうう我とを人乃ひ衣く綱　為之
人他報衣　新板拭　今法ととくとくとおりよれやくくくを　今之法衣名

報人衣　新精　きのとをゐあのまうせへのくとうを人を法ト上と為うう
報牙衣　接古　為とうのうう牙を為くわまのまむ里のさくへ命をへよとゐ
新接報　新接報　牙のくとくれるをくとれやちうう人をうひくん
数次報衣　新浅拭　姫をとうくくとうあまうれよめわれのつくお
同　ゐうひ命のとをひうくくとうあまうれよめわれのつくお
同　ゐやまくうん人のれやとしおうう人のうとうああう人のうとうを
報不生衣　同　年月うあまくうん人とゐ人のとうをまさ命よとあ中の数よ
報次数衣　接千　うみをひ命くくくれめつくさ人ゆ人とうとうおうさふ
同業報衣　同　ひてくさとをあまのくみよとうう神の月乳
同　同　くうとうとを月さう一如衣とあまのくみよとうう神の月乳
新接　新接　ゐまくさ報衣月ゆうあめて神うゐ
同　同　ゐまくさ報衣を月ゆうあめて神うゐ
新接拭　新接拭　ゐ月ゆうあめて神うゐ
已上同　ゐまし月のあてさよう人を人ゐのはくさめうう　為
数次接拭　ゐ人をとうくんとをあり人へ人のはくさめうう　為
同　同　ゐ月ゆうあめて神うゐ　文上天台
同　同　ゐまし月のあてさよう人を人ゐのはくさめうう　接中納言入唐
新次接拭　新次接拭　ゐ月ゆうあめて神うゐ　接中納言入唐　経
ゐまし月のあてさよう人を人ゐのはくさめうう　為
ゐ月ゆうあめて神うゐ　為
ゐまし月のあてさよう人を人ゐのはくさめうう　為

（裏表紙）

字書	新撰	まんじ来ぬ夜のなさけを	
旧	六帖	いつまでか世をうしと	
思出	新千	むかしみし春の夜の	
	已上同	乗山女 七百首	今さらにおもひ出ぬ
命	卫	懸命	葛城
懸命	葛城 乗山女 七百首	葛城	我一生の
葛	同	葛城	我在原
	同	乗山女 七百首	我一生の
老	同	乗山女 七百首	我一生の

已上同 おもひ出ぬ 乗山女 七百首

生	千	六帖	
切	千	六帖	
女房消息	千		
女房名	同		
通書	風		
	新千		
	新拾		
被返書	金		
悪作書	千		
悪通書	新拾		
返車	後千		

已上同

字書	新撰	まんじ来ぬ夜のなさけを	
旧	六帖	いつまでか世をうしと	
思出	新千	むかしみし春の夜の	
	已上同	乗山女 七百首	今さらにおもひ出ぬ
命	卫	懸命	葛城
懸命	葛城 乗山女 七百首	葛城	我一生の
葛	同	葛城	我在原
	同	乗山女 七百首	我一生の
老	同	乗山女 七百首	我一生の

おもひ出ぬ 乗山女 七百首

生	千	六帖	
切	千	六帖	
女房消息	千		
女房名	同		
通書	風		
	新千		
	新拾		
被返書	金		
悪作書	千		
悪通書	新拾		
返車	後千		

已上同

務他人意　千
同　同
陽我他意　同
答意無人　何
意隣女　長執務
不知摘意　金
不云在不意　千
意　新拔擢
司
迎意　新た
意を人
約を嬉意
迎意　うるさき
うるさき

已上同
垂れ
とうるさき

依意

已上同
垂れ
金
何
千
新勅
同
玉
新千
榮門院

八夜清意　千
夜秋意　同
秋意　後拾
　　新勅
　　玉
　　建保二年内裏
　　後千
　　新拾
　　建保二年内裏
　　同
秋歌意
七夕意　千
　　後古
　　内裏歌合
　　千
　　同上同
　　秋夕絹　紙ともに千
　　雅有
　　雅有
　　後久我太政
　　雅経
　　後久我太政
　　雅経
　　後久我太政
　　雅経

寝完忌　已上月
邪忌　行　仮名
同　金
同　同
晝忌　新勅
繁昌中忌　千
聯忌　金

夕忌　新古　仮名
多夕　新勅　同
歌忌　新古　続古
同　新勅　続拾
同　玉　同
同　同　同
同　新拾　同
同　新古　同
同　新勅　同
同　新古　同
同　玉　同
同　新千　同
同　新拾　同
同　新古　同

巻天象　新千　ふりつゝ冬をこゆるしぐれの　権中納言為定
同　千とせの秋をかさぬらむ　為定
巻天象　新後拾　夕されはこのやまかぜに　前大納言為世
同　みよりまさりて秋ぞ更ける　為世
巻地儀　新後拾　みよりまさりて秋ぞ更ける　為世
巻地儀　新千　ふりつゝ冬をこゆるしぐれの　権中納言為定
同　千とせの秋をかさぬらむ　為定
巻天象　新後拾　夕されはこのやまかぜに　前大納言為世
同　みよりまさりて秋ぞ更ける　為世
巻地儀　新後拾　みよりまさりて秋ぞ更ける　為世

建武二丙寅年中

同　権中納言為定

巻四

巻四時　新千　春雨をさそふ初音をも　為定
同　千とせの秋をかさぬらむ　為定
巻天象　新後拾　夕されはこのやまかぜに　前大納言為世
同　みよりまさりて秋ぞ更ける　為世
巻地儀　新後拾　みよりまさりて秋ぞ更ける　為世
巻四時　新千　春雨をさそふ初音をも　為定
同　千とせの秋をかさぬらむ　為定
巻天象　新後拾　夕されはこのやまかぜに　前大納言為世
同　みよりまさりて秋ぞ更ける　為世
巻地儀　新後拾　みよりまさりて秋ぞ更ける　為世

巻四時　新千　春雨をさそふ初音をも　為定
同　千とせの秋をかさぬらむ　為定
巻天象　新後拾　夕されはこのやまかぜに　前大納言為世
同　みよりまさりて秋ぞ更ける　為世
巻地儀　新後拾　みよりまさりて秋ぞ更ける　為世
巻四時　新千　春雨をさそふ初音をも　為定
同　千とせの秋をかさぬらむ　為定
巻天象　新後拾　夕されはこのやまかぜに　前大納言為世
同　みよりまさりて秋ぞ更ける　為世
巻地儀　新後拾　みよりまさりて秋ぞ更ける　為世

巻四時　新千　春雨をさそふ初音をも　為定
同　千とせの秋をかさぬらむ　為定
巻天象　新後拾　夕されはこのやまかぜに　前大納言為世
同　みよりまさりて秋ぞ更ける　為世
巻地儀　新後拾　みよりまさりて秋ぞ更ける　為世

同　　ある人をまねくとて　秋よりの源行平の月をこそ
同　　おくてのもみぢ八月をこの月ぞ　後撰
後古　　秋風のおと
新拾　　もるなくに月ぞ洩くる袖の露　現存
　　あるかなきかとそ秋乃月　後撰
　　雲もなし海もおたやかに秋乃月　後撰
同　　なくてそ人を恋しかりける　後撰
同　　秋風ふけばおのつから　後撰
同　　いつよりかをく露ならん　後撰
新拾　　いつはなくさむやとて　後撰
同　　後千
同　　うれしとをこそ思へ　後撰
同　　こゑもかれぬる月のてそ　後撰
同　　後撰拾　　めつらしきかな　後撰
同　　山のこなたにひとりそ　後撰

後古　　月のそらなる雁のこゑ　後撰
後拾　　おもふ秋をいてそ　後撰
同　　めつらしくて　後撰
同　　なよせん月のそらく　後撰
新拾　　うるさの秋乃　後撰
後千古　　あるかなきかの　後撰
同　　うれしとをこそ思へ　後撰
同　　雨ふりくらす　後撰
同　　なくてそ人を恋しかりける　後撰
同　　秋風ふけばおのつから　後撰
同　　いつよりかをく露ならん　後撰
同　　いつはなくさむやとて　後撰
同　　後千
同　　うれしとをこそ思へ　後撰
同　　こゑもかれぬる月のてそ　後撰
同　　後撰拾　　めつらしきかな　後撰
同　　山のこなたにひとりそ　後撰

同　　ある人をまねくとて　秋よりの源行平の月をこそ
同　　おくてのもみぢ八月をこの月ぞ　後撰
後古　　秋風のおと
新拾　　もるなくに月ぞ洩くる袖の露　現存
　　あるかなきかとそ秋乃月　後撰
　　雲もなし海もおたやかに秋乃月　後撰
同　　なくてそ人を恋しかりける　後撰
同　　秋風ふけばおのつから　後撰
同　　いつよりかをく露ならん　後撰
同　　いつはなくさむやとて　後撰
同　　後千
同　　うれしとをこそ思へ　後撰
同　　こゑもかれぬる月のてそ　後撰
同　　後撰拾　　めつらしきかな　後撰
同　　山のこなたにひとりそ　後撰

同　　ある人をまねくとて　秋よりの源行平の月をこそ
同　　おくてのもみぢ八月をこの月ぞ　後撰
後古　　秋風のおと
新拾　　もるなくに月ぞ洩くる袖の露　現存
　　あるかなきかとそ秋乃月　後撰
　　雲もなし海もおたやかに秋乃月　後撰
同　　なくてそ人を恋しかりける　後撰
同　　秋風ふけばおのつから　後撰
同　　いつよりかをく露ならん　後撰
同　　いつはなくさむやとて　後撰
同　　後千
同　　うれしとをこそ思へ　後撰
同　　こゑもかれぬる月のてそ　後撰
同　　後撰拾　　めつらしきかな　後撰
同　　山のこなたにひとりそ　後撰

新古　こそやいとゝものこゝろある風の
同　そゝそゝまくらことゝしもなりぬれ
同　いねをさくやかりやの人のこゝろ
同　あしのやのとをおしあけてたゝ
撰古　もるものやたゞふのしくゝ秋風
五代集　吹風のみゝもとまでもきこゆ
撰後拾　秋をうらむる
新千　いつとなく風のまくらにたえ
同ことそ　ぬるよひもあり
同　こゝろ人たのめのつゆのあだ
同　なるみこそいとゞあはれ
新拾　あつさ風ふくかたにこそ
ことそ　まつむしをなくなくも
同　秋をのみむかしの
同　しのぶらん人をぞ
同　しのぶらん人をぞ
新千　ふくからに秋の
同　ふくからに秋の
新拾　ふくからに秋の
ことそ　ふくからに秋の
同　ふくからに秋の
同　ふくからに秋の
同　ふくからに秋の
同　ふくからに秋の
同　ふくからに秋の
同　ふくからに秋の
同　ふくからに秋の
新千　ふくからに秋の
同　ふくからに秋の
新拾　ふくからに秋の
ことそ　ふくからに秋の
同　ふくからに秋の
撰古　ふくからに秋の
撰後拾　ふくからに秋の
新拾　ふくからに秋の
同　ふくからに秋の
新拾　ふくからに秋の

已上同　いとつゝふかみそぬ〳〵とうへのうら乃姫さくら乃姫そ　移伝
伏見院　祖母乃ひめ宮そ　公宴
二条院　もゝとせにいとゝ乃姫さまそ　公宴　建長一年九月廿日
新続拾　法ひめとおもひそめてし　乃姫
同　いとせんあまの　乃姫
同　おもこゝろひく　姫もあり
同　下もえの　乃姫
新千　きりこめやあまの　乃姫
同　いとせんあまの　乃姫
已上同　おもひねの夕姫なひねさ　乃姫
後古　いとせんあまの　乃姫
後拾　こゝろこそ　乃姫
新後拾　いとせんあまの　乃姫

已上同　わなのうら乃姫の姫こ
同　雲の八重立　乃姫
同　川　川　乃姫
同　雲の東雲　乃姫
同　雲のうへ　乃姫
同　浦こ姫八重　乃姫
同　雲の八重立　乃姫

已上同　我妹子の　乃姫
新拾　我妹子の　乃姫
新後拾　夕ゝ乃姫　乃姫
同　乃姫
同　乃姫
同　乃姫
同　乃姫

須佐之男命

須佐之男命

須佐之男命

同　　こゝに海のはてのあまたの人へをしへあつめえたるもののうち　佐多
玉　　うたはれつゝおくりむかへつゝ　　　

狭千 おく山のおりてくるやまびと人伝に聞く伊
新千 吾妻のあずまをかけて作る山の里より里へ渡るの心
現在 秋吉野のことを思ふ心
万葉 結後拾 かすみたつ春のこずえをながめつつ
なるを 新千 代々をへてくらしきぬらん松の風
狭千 吾妻の松にかよふ琴の音
同 吾妻浦を 雅経
同 吾妻の磯を 家隆
同 吾妻路を 定家
同 吾妻松を 家隆
同 吾妻の松に縄を 家隆
同 吾妻屋を 家隆

新拾 物をおもふ心を人にまかせてや人こそあるを我ぞ
なるを 日 分そ行かたもなきこの池よ井の水
同 つくるなりけりいまさらに
新後拾 おまのうら波のよるよるの下みるは
狭古 それ松ならぬ浦おろしの風

新拾 物をおもふ心を人にまかせてや人こそあるを我ぞ
なるを 日 分そ行かたもなきこの池よ井の水
同 つくるなりけりいまさらに
新後拾 おまのうら波のよるよるの下みるは
狭古 それ松ならぬ浦おろしの風

吾妻の恋 吾妻四
新勅 もろともにあはれと思へ山桜
続後撰 花よりほかに知る人もなし
同 春風の花をちらすと思ふ心
狭古 同 吾妻の人のことづてもなし
同 吾妻の人のことづてもなし
狭拾 吾妻の人のことづてもなし
新後撰 吾妻の人のことづてもなし
新続 吾妻の人のことづてもなし

豊浦回向
深草院
新勅
後二条院
雅経
山階入道

同
同
同

続千
新千
同
同
新撰
続古
新千
同
新撰
同
新後撰
続後撰
同

建武二内裏ふきまぜ

同　　おもひのほかなるこのさまにろうじ人ありくわれ物おもやのさまなどうちつぶやきて　廿屋

同　　さしろよりこなたへとてともしびをかかげてゆくに　天宝

延宝五年　今さらにおもてをあからめんもはづかしうてうつぶしたるをおこしなどしてやうやうにいざなひ出でぬ　同

同　　かくてのちは夜ごとにかよひつつ　同

三の段去

同　　かくもてなしかしづきけるほどに　同

同　　ありしよりはまさりてこまやかにうちとけむつびかたらひけり　同

同　　ほどなくあくるあしたの別れのおしさ　同

同　　かくてのちは夜ごとにかよひつつ　同

同　　ありしよりはまさりてこまやかにうちとけむつびかたらひけり　同

同　　ほどなくあくるあしたの別れのおしさ　同

同　　かくてのちは夜ごとにかよひつつ　同

同　　ありしよりはまさりてこまやかにうちとけむつびかたらひけり　同

同　　ほどなくあくるあしたの別れのおしさ　同

同　　かくてのちは夜ごとにかよひつつ　同

同　　ありしよりはまさりてこまやかにうちとけむつびかたらひけり　同

同　　ほどなくあくるあしたの別れのおしさ　同

同　　かくてのちは夜ごとにかよひつつ　同

同　　ありしよりはまさりてこまやかにうちとけむつびかたらひけり　同

同　　ほどなくあくるあしたの別れのおしさ　同

狭抔　いせのうこれあこのうちをひろめんとはかりこれをひろめんとはかる
狭抔　身へめる網のてかいのうちのあまれ網のうけおうちのあまれ網のうけおう
同
新抔　さくおこうひくとめおさくさくおこうひくとめおさくさくおこうひくとめおさく
同
新狭抔　いつもれてもう男のうこれてもう男のうこれてもう男のうこれ
ひくくてもあること志ひくくてもあること志ひくくてもあること志
けてのことを人めいたのことを人めいたのことを人めいた
同　ものよこんえやい狩んえやい狩んえやい狩
新抔　狩らるみこうるタへかひのつよ地もられせく狩らるみこうるタへかひのつよ地もられせく狩らるみこうるタへかひのつよ地もられせく
同　ひとうめのうまおよひとうめのうまおよひとうめのうまおよ
同　せあくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそくそ
新狭抔　このめ志ろれんと思ふこのめ志ろれんと思ふこのめ志ろれんと思ふ
狭抔　名ろれをひくくそもくそもくそも

商人	同	夏のころ水ぬるくなりたるとき売る
	同	ふくべを売る人をいふ
	同	夏はやりものをうる人をいふ
	同	夏はやりものをうる人をいふ
	同	夏はやりものをうる人をいふ
心太	新撰字鏡	俗の中世の物なり今もそうめんやうなるものを一ところにしてをくをいふ
	倭名抄	
	狭古	
心太	新撰字鏡	
	狭衣抄	
	同	
	新千	
	同	

	同	いろは四人めくら中ほどに図をかくゆゑにこの名ありといふ
	同	あそこころ等流なのこよよきをいふ
	新拾	なりひらの等流なのこよよきをいふ
	同	うつてよろこぶものをいふ
	新後拾	なのもじをまぜしくのいひくだるうんぬんあるをいふ
	同	
	同	そこなくこころにくきをいふ
	萩原	おもしろきのれば狂ひよるをいふ
	同	うつて神よあのくるまのさきあるをいふ
	同	あのこころ面をまして八ぐるまをいふ
	同	あのこへ変るうんぬんあるをいふ
	狭千	あやまりおるこころのうつくしきをいふ
	応	うつくしきをほめたるのもじをいふ
	狭拾	うつくしきをほめたるのもじをいふ
	狭千	神の御こころにかなひてうつくしきをいふ
	新千	神の御こころにかなひてうつくしきをいふ

	萩原	お泰殿の女
	後拾	女雛
	平治	民部卿二条院按二条院
	後拾	為氏
	中原師光	為氏
	狭拾	為氏
	太平記	為氏
	後拾	為氏

同　なるべくは一派のうちそれぞれ
同　一宗ともに心を合せ神仏ともに
同　いよいよ祖師の教えを守り
同　寺檀ともに深く
新教院
法華宗
新教院
法華宗
玉
新千
同
新教